

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



大泉緑地で自然と親しむ会。植物観察と樹木地図づくりを楽しんだ。

Contents

- 第22回会員総会のご案内 P 2
- 東北の海岸林再生プロジェクトツアーご案内 P 2
- 南天門自然植物園17年の成果 P 4
- 西伊豆町で若い力が躍動 P 6

2016.3
168

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

認定 NP0 法人 緑の地球ネットワーク

第 22 回総会のご案内 6 月 11 日（土）

緑の地球ネットワークの黄土高原における緑化協力の開始から 25 周年の節目の年です。9 月にはそれを記念する活動も予定されているなかで、大きな決断を求められています。

今後どのように進むのがいいか、会員総会ではっきりと結論をだす必要があります。

国内活動では、関東ランチが参加してきた西伊豆町宇久須での活動が国際ボランティア学生協会 (IVUSA) の

参加で大きく発展しつつあります。昨年 9 月にはゆりりん愛護会（名取市）と協力して、岩沼市の津波被災地で海岸林の再生に取り組みましたが、今年度も継続します。また関西圏でも継続的に取り組むことのできる活動を準備しているところ です。

これらの活動を多くの会員のみなさんの意見をきいて、ともにすすめていくための重要な機会ですので、ぜひ総会にご出席くださるようお願いいたし

ます。

緑の地球ネットワーク第 22 回総会
▼日時：6 月 11 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分

▼会場：大阪市立西区民センター第 4 会議室（大阪市西区北堀江 4-2-7 TEL.06-6531-1400、地下鉄千日前線・長堀鶴見緑地線「西長堀」駅からすぐ）

今回は記念講演を開催せず、これまでの到達点の確認と今後の方向について時間をかけて議論することにしてい

ます。
総会終了後に懇親会をおこなう予定です。

寄付へのお礼

日頃 GEN をご支援いただき、ありがとうございます。

今年度は緑の地球ネットワークの財政が大ピンチ！と、昨年末の寄付のお願いにくわえて、会報 1 月号で再度のお願いをしました。

みなさんに事情を理解していただき、1 月 6 日以降 3 月 2 日までに、37 件、2,646,678 円のご寄付をいただきました。4 月 1 日からの累計は、287 件、6,636,024 円になりました。予算の 10,450,000 円に対して 63.5%まで近づくことができました。みなさまのご厚意にあらためて感謝申し上げます。

今後とも GEN の活動にご支援・ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

参加者募集 東北の海岸林再生プロジェクト 講演・シンポジウムと植樹参加ツアー

風薫る 5 月の名取で、久々の小川眞先生の講演を聞き、マツの植樹に参加しませんか。

往復の足を確保していただくために、集合と解散、宿泊先を先に決めました。

○日程：5 月 14 日（土）～15 日（日）

○集合：14 日 12 時 50 分、名取市文化会館（名取市増田字柳田 520 仙台空港線「杜せきのした」駅徒歩 8 分。「杜せきのした」駅までは「仙台空港」駅から仙台空港線で 7 分）

○解散：15 日 16 時 30 分、仙台空港（その他のご希望があれば可能なら調整します）

○宿泊：ロイヤルメイフラワー仙台

○費用：17,000 円程度（14 日夕食、宿

泊（朝食つき）、15 日レンタカー代、保険料など。仙台までの交通費は含みません）。人数により変動します。

○内容：14 日は名取市文化会館でゆりりん愛護会主催の講演（講師：小川眞さん）とシンポジウムに参加します。終了後、懇親会があります。15 日は名取市寺島地区でマツの植樹をおこないます。ご希望の方は、昼から別行動で被災地見学ができます。

○定員：16 人

○申込締切：4 月 14 日

○問合せ・申込み：GEN 事務所まで
※前泊、後泊等、延長のご希望があればご相談ください。

泉佐野丘陵緑地は豊かな自然を活かした大阪府営の 19 番目の公園で、関西空港の対岸にあり

ます。公園の一角に棚田があり、それを利用して市民参加の活動をおこなう「郷の棚田プログラム」に緑の地球ネットワークが応募し、採用されました。大同で野菜として栽培されている黄花草＝金針菜は日本のユウスゲそっくりのきれいな花をつけるうえに、野菜として栽培されるくらいで花が大きくて数が多く、大株になると数百も花をつ

参加者募集 泉佐野丘陵緑地で郷の棚田活動

懐かしい作物や花などを植えて楽しむ

けます。また、アワ、キビなどは以前はごくふつうの作物だったのに、最近は見られなくなりました。そのような「懐かしい植物」やきれいな花などを育てて楽しみたいと思います。

第 1 回の活動として黄花草の苗の植え付けなどをおこないます。

なお泉佐野漁港青空市場は新鮮な魚介類が安いとあって、他県からのお客

さんもたくさんあるほどだそうです。

▼4 月 3 日（日）10 時（集合）～15 時ごろ

▼JR 阪和線「長滝」駅改札口集合
▼参加費 500 円（保険料を含む）
▼持ち物 弁当・飲み物・敷物、軍手・帽子・タオル、動きやすく汚れてもいい服装と靴。

3 月 29 日までに GEN 事務所へお申し込みください。大阪府南部や和歌山県からの参加をとくに歓迎します。



報告

淀川でバードウォッチング

藤 田 修 二 (GEN 会員)

2 月に 2 回の自然と親しむ会を開催しました。6 日は高田直俊さんの案内で淀川でのバードウォッチング。27 日は前中久行さんの指導で、大泉緑地での植物観察と樹木地図づくり。どちらも天候に恵まれて参加者に好評でした。

標題の催しに参加しました。探鳥会は GEN のイベントでは 2 回目です。

講師は GEN 会員の大阪市大名誉教授



オオバン、ヒドリガモなど水辺の鳥を見る。

で前大阪自然環境保全協会会長の高田直俊さん。専門は土質工学ですが、鳥にも植物にも造詣が深い稀有の研究者です。加えて、古くから市民として淀川の自然を守る会にも関わり、一方で学識経験者として建設省（現国交省）の淀川政策に助言し、注文を付けてき

た、いわば淀川を知り尽くした人です。

観察コースは京阪電車樟葉駅近くから枚方市駅までの約 7km。午前 10 時から午後 3 時過ぎまで、河原でも風は弱く、参加者 10 人で気持ちよく歩きました。それぞれ双眼鏡を持参していたほか、高田講師とこの日の世話役川島副代表がスコープを持ってきていたので、ちょっと遠い鳥もくっきりすっきり見えて、皆さんうれしそう。高田さんからは最初に「鳥の見分け方」などの説明があったほか、道々、「あつ、あそこにノスリ（タカ的一种）！」と鳥を見つけてもらいました。また、植物の遷移やワンド（川岸の池のような水たまり）の掘削・新設など、環境改善事業の批判的解説も加わり、淀川に関する総合的な理解が深まりました。

最後にこの日見た鳥を集計したとこ

ろ、陸の鳥、水辺の鳥合わせ 40 種類に上りました。高田さん、川島さんが下見に来られた際より 9 種類も多く、幸せでした。個人的にはちょっと珍しい鳥、オジロピタキが初めて見られて大変良かったです。高田さんによると、今年は冬鳥ツグミが豊作だそうです。

そのほか、タヌキの足跡、ネズミの巣も見つけました。ちなみにほ乳類ではキツネやカワウソのようでカワウソでないヌートリアも淀川には生息しています。また、対岸高槻市の鶴殿で行われる伝統行事ヨシ焼きの準備風景も遠望しました。

オジロピタキ



報告

大泉緑地で樹木地図作り

内 藤 紀 雄 (GEN 会員)

この日参加したのは総勢 17 名。午前中は公園内の樹木の観察で、お昼を挟んで午後は公園内の一区画の樹木の地図作りでした。

公園の管理事務所に集合して、まずは前中先生の案内で公園内の樹木を観察しました。管理事務所のすぐ前の大きな通りに銀杏の木が植えられていますが、40 年たったとは思えない生育状態で、たい肥を根元に入れる施肥の試験中でした。

前中先生の説明では先生がまだ学生のころに公園の整備が始まり元は広大な田んぼだったとのこと。さらにその前は防空緑地でそれが戦後の農地解放で農地になり、その後、今の形の公園に整備された経緯があるそうです。防空緑地というのは高射砲を置くための陣地がいくつか設けられた広い緑地で、同じような防空緑地が服部緑地や久宝

寺緑地などいくつか大阪の周りに設けられ、その跡地が今はいずれも大きな公園になっているそうです。



詳しい説明をきくと植物のおもしろさが倍増する。

公園全体の面積はおよそ 100ha で、元の平坦な田んぼの地形に手を加えて池や起伏を設けて今のような変化に富んだランドスケープに仕上げたとのこと。公園も 40 年たつと当初の設計意図と違った展開があらこちらに出て、

そこをどのように扱うかが今の課題とことです。落葉の広葉樹の林と常緑の広葉樹の林が交互に植わっていて、林床は落葉が覆っているところと下草がまばらに生えていて椿が植わっているところがあります。タブノキのような珍しい木も植えてありました。

午後の樹木調査は公園内の一角の広葉樹の林で樹木地図作成のための測量を皆さんが協力して行いました。最初に道路のすぐわきの照明ポールを起点に周りの樹との距離をメジャーで測って図面の上に記録してゆきます。樹木に振った番号が 130 番台までで周りの樹との距離を次々に測り図面に記録してゆきます（三角測量）。測量に参加していたコンサルタントが今回の測量をもとに樹木の地図を作成することになります。ここまでの作業が終わったところで調査は終了で、皆さん管理事務所へ戻り解散となりました。ご苦労様でした。

山奥にみつかった自然林

「自然林がみつかった、一抱え以上の樹木がある」李向東さんの報告を受け、1998年の8月、遠田宏顧問と私はそこをめぐりました。何度かの挫折のあと、片道4～5時間を歩いて、やっと目的地にたどり着きました。そこは碣寺山(1768m)の山頂で大同市の最南部、河



碣寺山の山頂付近に落葉広葉樹の森林が広がっていた。

北省との境界から5kmのところ、ナラ、カバノキ、シナノキ、カエデなどの落葉広葉樹が繁っていたのです。まだ若い森林で、樹齢は20年余り、最大のもので樹高9m、胸高直径16cmほどでした。そして反対側に下った谷には一抱え以上の樹木もありました。

このときのことを緑の地球ネットワークの公式facebookで連載しています。

<https://www.facebook.com/genfcbk>

植物園建設は立花吉茂前代表の悲願でしたが、このような森林を道路近くに移して、林業関係者にみてもらえれば、それだけでも意味があるでしょう。これまでの植林はポプラとマツなど、ごくわずかの樹種でなされていますので、豊富な自生樹種を知ってもらえば、効果大だと考えたのです。

高低差があり複雑な地形

7か所の候補地をみてまわり、最後に訪れたのが現在の南天門自然植物園です。海拔900～1320m、4～5本の尾根と同数の谷筋があり、登るのもたいへんです。しかし高低差があり、地

形が複雑なほうがたくさんの植物を育てられる、というのが立花先生の意見でした。小さな谷の奥まった数か所に湧き水があり、直径10mほどの池もありました。ここに決めました。

近くの南庄村で住民と話し合い、この敷地内では柴刈りや放牧をしないことを約束してもらいました。それだけではあてにならないので、境界にトゲのある植物を植え、管理棟を建てて人が常駐するようにしたのです。

1999年4月に地元の村人と日本からの協力団が参加して起工式をもちました。NHK-BS2の「地球に好奇心」シリーズ「中国黄土高原～失われた森の文化を求めて」の取材もあったのです。その番組は5月に放映されたのですが、余談があります。その

年の7月、小渕恵三首相の訪中の直前、中国の緑化に取り組んでいる関係者が官邸に集められたのです。別れ際に総理から「テレビをみました。ご活躍で」と声をかけられました。忙しい人がまさかと思っていたのですが、小渕総理



高低差があり地形が複雑。多くの植物を育てるには好都合。

はテレビを録画して夜中にみるのが日常だったそうです。

日陰斜面に森林が再生

まったくの荒れ山で、木はほとんどみられず、草もまばら。毒のあるもの、トゲのあるものが目立っていました。起工式のあと、アブラマツの苗を山の斜面に植えました。手に入る苗はそれしかなかったのです。

数年のうちに手応えを感じるようになりました。マメ科やイネ科の植物が

南天門自然植物園 17年の成果

ナラを中心に落葉広葉樹の森林が再生

南天門自然植物園の着工は1999年4月。86haのー山はまったくの荒れ山でしたが、17年間の努力を通じて自生樹種を中心とする森林再生がみごとに進みました。

高見邦雄（副代表）

増え、トゲのあるものが減ってきました。腰の高さだったものが、胸や肩の高さに伸びてきたのです。「ヤギやヒツジを訓練して、道路のところだけ食べさせることはできませんかねえ」などと冗談を言っていました。

変化が大きかったのは北向きの日陰斜面で、中国では陰坡と呼びます。海拔1100mを超えるところに、もともと2mくらいのナラがありました。冬に葉が枯れても、枝に着いたままになっており、それとわかりました。成長の途上なのか、伸び悩んでその姿なのか、私には判断できませんでした。それが伸び始めたのです。一年に50cm以上伸びることもあります。あれから17年ですので、10mほどになるわけです。実際に大きなナラは樹高13m超、胸高直径25cmほどに育っています。

わかっているナラは4種類です。リョウトウナラ、モンゴリナラ、カシワ、ナラガシワですが、前の2つは同種だという説もあります。この地方の極相林を構成する樹種で、とりわけ重視しています。

残った根株から育つものも

地上部は伐られても、根は残り、そこから萌芽するものもあります。李向東さんが「シラカンバは2本だけ」というので、真に受けていたのですが、あるとき3m級がまとまってあるのに気づきました。株元から萌芽すると、1年に1.5～2mも伸び、これらはいま20mにもなっています。

4～5人のスタッフがあの碣寺山まででかけ、ナラの種子・ドングリを集めて苗作りをはじめました。最初はいっ熟するかわかりません。未熟なものはだめだし、落ちて日がたつとシカなどが食べ、乾燥すると発芽率が落ちます。何度も通って最初の年に200kgも集めたのです。それから育てた苗がい

までは5m以上に育っています。



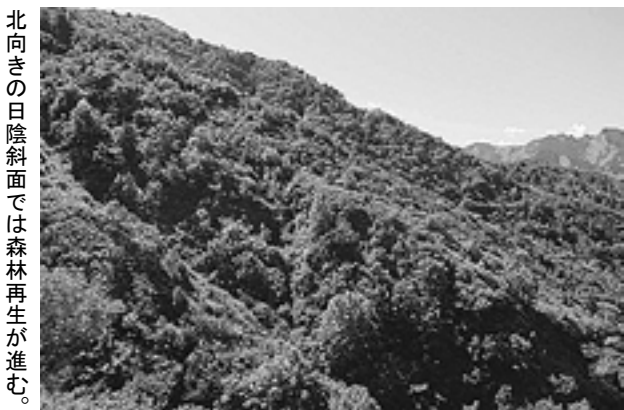
自然林で採集した種子からナラの苗を育てるスタッフ。

近年は敷地内のナラが実を着けます。落ちた種が芽生え、天然更新もはじまりました。毎年枯れ葉や枯れ枝を落として腐葉土ができ、土壌を肥やしますので、発芽や生育にもつごうがいいわけです。

小川眞顧問によると、土中の微生物も急速に増えているそうです。はげ山のときは栄養がありませんので、微生物や小動物もいませんでした。ところが落ち葉が増えたので、それを分解するキノコやカビが増え、土壌の形成が速まりました。良性の循環がはじまったのです。

日向斜面は植物種が豊富

南向きの日向斜面（陽坡）は変化が



北向きの日陰斜面では森林再生が進む。

遅かったのです。乾燥がひどいうえに、温度の日格差が大きく、植物の生育に不利です。木や草が少ないところに雨が降ると、土を押し流し、なおさら植物が育たなくなります。岩盤がむき出しのところが多かったのです。

日陰斜面と日向斜面で極端な対比があり、それを前に事情を説明するのが私の役割でした。ところが近年、遠目にはそれほど差がなくなっていました。灌木が主ですが、南斜面も植物が増えてきたのです。

多いのは灌木性のトネリコ（小葉白蛾樹）とニンジンボク（荊条）です。前者はつぎつぎに萌芽し1株が200本にもなっていることがあります。またたくさんの種を飛ばして広がっています。

日向斜面にはノモモ（山桃）、シナノミザクラ（桜桃）、エゾムラサキツツジ（満山紅）のようにきれいな花を咲かせるものも多く、種の数でいえば、日陰斜面より多いくらいです。そうやって植物が戻ると、土壌が徐々にできてきます。

きれいな草花もたくさんあります。イトハユリ（山丹）は艶のある朱色の魅力的な花を咲かせます。ヒツジなどの好物らしく、最初はありませんでした。大きな群落をつくるまでになりました。そのほかにヒエンソウ、マツムシソウ、カンムリキンバイ、シャジン、ワレモコウ、オキナグサ、セキチク、テッセン、ウメバチソウ、トリカブトなどが、季節の巡りにあわせて色とりどりの花を咲かせます。日本のものより総じて花や姿が大きく、花の色に透明感があります。日中はカーッと照って光合成が進み、夜間は温度が低くて呼吸作用が抑えられるの



がいいそうです。

永久保存望む中国の専門家

JICAの草の根技術協力事業を受託して整備をすすめたのですが、重要な1項目に作業・観察道がありました。山の上をめざすには以前は尾根筋の放牧道をたどるしかありませんでした。ところが植物が多いのは谷筋なのです。山頂（南天門です）までの階段ができ、両方向への水平道ができたことで、森林再生のようすをしっかりとみることができます。

日陰斜面と日向斜面にそれぞれ20m四方の調査区を設け、さらに特徴のある木を個別に定めて、樹高と胸高直径



日向斜面は植物の量は少ないが種類はむしろ多い。

を測定し記録しています。前中久行代表の発案です。スタッフたちは自主的に標本づくりをはじめました。およそ500葉になったといえますから、それに近い種類の植物があるのでしょう。

2013年4月、中国林業科学研究院の陳幸良副院長と北京林業大学の教授2人がここを訪れました。陳副院長は「封山育林のプロジェクトは全国に無数にあるけど、森林再生がこれほど順調に進行しているところを自分は知らない。中国の北方でこれほど多くの植物種がまとまってあるのはほかにないだろう」と述べ、永久保存が望ましく、自分も協力したいと話しました。

今回ほどカラー刷りでなかったことが残念なことはありません。

報告 西伊豆町で若い力が躍動 黄金崎の松の保護と鉱山跡地の緑化

藤原 國雄 (GEN 世話人)

国際ボランティア学生協会 (IVUSA) の学生が、今年は 140 名、関西からバス 1 台、関東からバス 2 台で西伊豆に来て、公民館に分宿し、自炊しながらの生活です。前日に先遣隊 9 名がやってきて、第 2 休耕田で昨年 GEN の春合宿で植えた野菜を掘りあげ食材といたしました。今回の活動は 2 つ組みました。

2 月 27 日 (土) は「第 3 回黄金崎の松・再生プロジェクト」です。中途半端では終わりたいくないとの IVUSA の希望から、総仕上げと位置づけました。2014 年に小川眞顧問に来ていただき、伐採する松と、手当てをする松に分けました。周りに群生しているツワブキをはぎ取り、無煙炭化器で焼いた炭を蛸壺状に掘った穴に入れ、菌根菌の胞子液

をまいて、川砂で覆いました。昨年は残った松に同じような手当てをしました。今年は、林床の整備とツワブキの移植などを学生や地域住民、まちづくり協議会員などで行いました。松の周囲半径 5 m のツワブキの撤去、松葉かき、伐採した松の枝を無煙炭化器 7 基で炭に焼きました。土嚢 59 袋の炭が入手できました。大勢の若者の「エッサエッサ」という声が響き渡りました。

28 日は GEN と IVUSA の共同プロジェクトでした。昭和 13 年から採掘を開始した東海工業。純度



珪石採掘跡地の緑化に挑戦。うまくいけばすばらしい！

99.5 % の珪石がとれ、一時は 90 % のシェアがあった伊豆珪石の露天掘り。平成 20 年に採掘が終わり、緑化に努めましたが、pH2 ～ 3 の青粘土やシカによる食害で苦労していました。関東ランチで宿舍を借りている関係で GEN に協力依頼がありました。青粘土の提供を受けて、いろいろ考えました。中和

に石灰は使えません。硫酸イオンが多いため、石膏になり固まってしまう。

そこで思いついたのが炭です。GEN 顧問の先生方の教えを受け、最終的には 2 m 間隔で深さと直径 30cm の穴をユンボで掘っていただき、IVUSA の学生の力を借りて、半分ほど石を戻し、残った土に約 20 % の炭と牛ふんを混ぜて戻し、鹿の食害に強いと思われるア

セビ、シキミ、イズセンリョウを植えました。

昨年 9 月に立教大学の上田ゼミの学生が植えたシキミが元気に生きていました。学生は自分の植えた木にラベルを付けました。

伊豆が世界ジオパークに認定されれば、絶好のジオサイトになるとされます。その時に結婚した家族を連れて来て、自慢できれば良いなと思い、IVUSA に提案いたしました。

Facebook をはじめました

インターネット上にさまざまな SNS があり、会員や会報読者もたくさん参加しておられると思います。

緑の地球ネットワークもこのたび Facebook のページを立ち上げました。いまのところ、高見副代表が南天門自然植物園の立ち上げの経緯を詳しく報告しています。

今後の進展をみながら、広告の掲載、資金獲得などにもつなげていきたいと思っています。この方面に詳しい方々のご協力をお願いします。

<https://www.facebook.com/genfcbk>

黄土高原史話 <7>

花ひらく北魏の洛陽 (中)

大同観光の目玉は、なんといっても北魏王室が代々築いた雲岡石窟。市内から少し離れてはいるが、GEN のツアーも必ず立ち寄る世界遺産。

ところが同じ北魏時代には、市内つまり平城の都にも多くの寺が存在した。雲岡石窟がほぼ今日見るごとき状態になったのは、第 6 代孝文帝の太和年間 (477 ～ 499) の初めごろ。その当時、平城には仏寺が 100 で、僧尼が 2000 余 (『魏書』釈老志)。

一つだけ例をあげると、御道 (メインストリート) 南端の東側にあった永寧寺。天安元年 (466)、孝文帝の生誕を祝って造営された。7 層の塔を構え、その高さ 300 (30 ?) 余丈。建築設計の博く高きこと天下第一と。

その他、著名なもので紫宮寺・皇舅寺・報德寺・崇虚寺など。しかし、それらはすべて記録によって知りうる。いま大同市中には、北魏の寺院は残っていない。

では、平城のあと、新たに首都となった洛陽ではどうだったか。

第 7 代宣武帝と第 8 代孝明帝の時代、つまり 499 ～ 528 年の間、帝室をはじめとする貴族らの尊信と援助をうけ、仏教は空前の活況を呈す。城内外の寺院は、518 年には約 500、北魏末には 1367 に達したという。その盛況のさまは、北魏の分裂後、東魏につかえた楊街之の名著『洛陽伽藍記』に詳しく

谷口 義介 (GEN 会員)



『洛陽伽藍記』の冒頭

よって紹介しよう。

永寧寺は、熙平元年 (516) に靈太后の胡氏が建てた寺である。宮城の正面の閶闔門から南へ一里、御道の西側にあった。

平城にもあった永寧寺と同じ名だが、こちらの方は宣武帝の妃にして孝明帝の母たる靈太后の発願にかかる。天下の寺院の中心となるべき官寺として企画。洛陽のメインストリートを銅駝街というが、その西側 250 メートルのところにあった。

境内には九重の塔が一基あって、木を組み上げて建てられ、高さは計九十丈。頂きには更に金色の刹竿 (相輪) が十丈、全部で地上千尺の高さになり、都から百里離れたところからも望見できた。

「高さ九十丈」とあるのは、『水経注』穀水の条に「四十九丈」、『魏書』釈老

みえる。

こころみにその巻第一「城内」の冒頭部分を入矢義高氏の訳 (平凡社『中国古典文学大系』<21> 1974 年) に

志に「四十余丈」とあるから、『水経注』の方にしたがって塔の高さは四十九丈 (150 メートル) とすべきか。「百里」(40 キロ) の彼方から見えたという。発掘調査によれば、長方形プランで四周に盛り土の築地があり、東側は残長 350 メートル、西側は残長 228 メートル。境内の中央に築かれた高さ約 8 メートルの台基の上に、その木塔は 4 本の柱を一組に束ねて方形に配置した 16 柱で造られていた。150 メートルの巨大な塔ともなれば、1 本の心柱では支えきれなかったのだろう。

塔は九重で、そのどの四角にも金の鈴が吊され、上下全部を合わせると百三十もあった。・・・風のある秋の夜などは、金の鈴の音が響きあって、その鏗鏘たる調べは、十余里にまで聞こえた。

130 個の風鐸のほか、各階の四面の扉には金鈴が 5 列にわたって吊るされ、全部で 5400 個あったという。そのきらびやかさはいかばかりであったろう。

塔の北に仏殿が一つあり、作りは太極殿に似ていた。・・・僧房と楼観は合わせて千余間、彫りのある梁に白い壁、彩色された扉と彫りのある櫺窓など、とても言葉では言い表せない。

おりしも、西域から名僧菩提達磨が洛陽にやってきて、永寧寺を見るや、「まるで神業だ」と感嘆し、「拙僧はいま 150 歳、諸国をめぐり歩いてきたが、これほど壮大・華麗な寺はない」と、幾日も合掌しつづけた、と。ダルマさんも“びっくりばん”、というわけだ。

日中の緑化協力などに新しい基金 青少年交流や、第三国での植林にも

小淵恵三総理の中国訪問にあわせて、総額 100 億円の日中民間緑化委員会資金が誕生したのは 1999 年のことでした。中国で緑化に協力する日本の民間団体や自治体などに翌年から助成がはじまり、緑の地球ネットワークも最初から受けてきました。それから 15 年がたち、2015 年度末の残金が 10 億円にまで減ってきていました。そのためにここ数年は助成額がしばらく減っていたの

です。

2015 年度の補正予算で、90 億円の日中植樹植林国際連帯事業が計画され、すでに国会を通過しました。外務省の担当者の説明によると、これまでの資金の強化拡大だけでなく、青少年を中心とする日中交流、日中が連携して第三国で実施する植林なども対象になるそうです。

資金は公益財団法人日中友好会館の

管理下におかれ、中国での植林協力の部分は外注され、おそらく日中民間緑化委員会とその事務局の日中緑化交流基金が引き続き担当することになるようです。3 分野がどのような割合になるかは未定だそう。

日中の政府関係が悪化しただけでなく、両国の国民感情が冷え込んでくるなかでも、緑化や環境協力の分野では粘り強い交流が展開されてきました。この事業が民間交流の強化、環境協力の今後の前進に活かされ、役立ってほしいと思います。

情報ひろば いっしょなかたち

タンポポ調査・西日本 2015 調査報告会

▼3月20日(日) 13:30～16:30
▼大阪市立総合生涯学習センター
第1研修室(大阪駅前第2ビル5階)
参加費 500円
調査報告 実行委員会事務局
講演 「私がみた日本のタンポポ
～高山・里山から都会の空き地まで
保谷彰彦(たんぽぽ研究者)
●主催:実行委員会 TEL. 06-6242-
8720
gonhana.sakura.ne.jp/tanpopo2015/

自然かんさつ塾

1. 自然観察入門／楽しみ方
4月3日(日) 10時～16時
南港野鳥園会議室
2. 野の花に教わろう／草花観察
4月9日(土) 10時～16時
淀川三川合流地帯・背割堤
3. 干潟の魅力／淀川観察
4月23日(土) 10時～16時
柴島再生実験干潟
4. シイ林を通して／樹木観察

本の紹介

『中国古代都城の設計と思想—円丘祭祀
の歴史的展開』佐川英治著／勉誠出版
／11,000円(税別)

GENの黄土高原ツアーにも参加され
た佐川先生からご著書を送っていただ
きました。立派な学術書でかなり気後

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。
主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。
なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

5月8日(日) 10時～16時
箕面公園
5. 生きものいっぱい／磯観察
5月22日(日) 10時～16時
岬町・長松海岸
6. ホタル観察／修了式
6月4日(土) 16時～21時
猪名川町海洋センター
●塾費:10,150円(保険料込み)
●募集:25名(先着順)
●締め切り:3月25日(金)
●主催:大阪自然環境保全協会
TEL. 06-6242-8720
www.nature.or.jp/training/juku/

自然大学(第22期)受講生募集

2016年4月～2017年3月
全14回(室内講義7回、実習7回、基
本は日曜日)
第1回(4月10日)は公開講座
室内講義は近畿中国森林管理局4階大
会議室(JR大阪環状線桜ノ宮下車)
実習は春日山、豊国崎、金剛山、馬ヶ
瀬山、京大芦生研究林(1泊)、琵琶湖、
昆陽池で、五感を働かせ、身体全体で

れしながら開いたところ、北魏を扱っ
た2章もあり(大同と洛陽)、谷口先生
の連載『黄土高原史話』のバックナン
バーと比べてみるのも楽しそうです。

高価な専門書なので買い求めにくい
と思いますが、図書館などでリクエ
ストしてご覧ください。GEN事務所の
ものも貸し出しいたします。(東川)

自然を感じます。
受講料:35,000円(野外実習経費は別)
NPO法人自然と緑(TEL.06-6978-5060
http://home.att.ne.jp/iota/sizen_midori/
E-mail sizen_mi@osb.att.ne.jp

土佐文旦のご案内

毎年好評の文旦のご案内です。土佐
の春の香りをお楽しみください。
A 3-4L 5kg(6-9玉) 4,200円
B 2L 〃(10-11玉) 3,700円
C L 〃(12-13玉) 3,200円
D M 〃(14-15玉) 2,700円
倍量の10kg箱もあります。

送料 関西650円 関東860円 北海
道1200円(20kgまで)

★ご注文は
〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内
203 田中農園
TEL/FAX.0887-29-2500

tanakan3@cronos.ocn.ne.jp
*売り上げの一部を寄付していただい
てますので、ご注文に一言「GENの
紹介」と添えてください。

編集後記

4月に計画していた黄土高原ワーキン
グツアーが参加者が少なかったため成
立しませんでした。一昨年春について2
回目。状況の厳しさを痛感しています。

秋のツアーは9月上旬の出発を予定
しています。気持ちを直して、しっ
かりがんばりますので、多くのみなさ
んのご参加をお願いいたします。